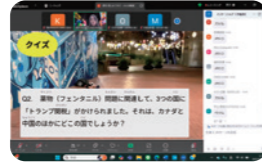


主な連携先

府中市との連携

言語文化学部の正課の一環として、府中市とともに、市民を対象とした交流会を開催しているほか、「外国人のためのやさしい生活便利帳」を作成してきました。

府中市多文化共生センター-DIVE主催のフィリピン語サロンでは、本学フィリピン語専攻の教員と学生も企画・運営に協力し、地域の在日フィリピン人や市民の方々と交流しながら、フィリピンの料理、言語、遊び、歌、映画などについて学んでいます。



群馬県太田市との連携

群馬県太田市と、多文化共生を担う人材の育成と地域社会の発展を目的に、協定を締結しています。主な活動として在日ブラジル人コミュニティで、ポルトガル語劇の公演を行っています。ブラジルにつながる子どもたちが自らのルーツの国の文学や演劇に親しむよい機会となっています。



東京地方検察庁との連携

東京地方検察庁と多言語多文化社会における円滑なコミュニケーションの実現、通訳人等の育成を目的として連携、協力していくことで合意し、覚書を締結しています。多文化共生や通訳スキルについて相互に研修を実施するほか、司法通訳への理解を深めるイベントを実施しています。



沿革

東京外国語大学では、国内の多言語多文化化を受けて、2004年10月に「多文化コミュニティ教育支援室」を設け、学生たちが大学で学んでいることを活かしたボランティア活動を支援してきました。在日外国人児童生徒への学習支援や国際理解教育など、地域社会、教育委員会、小中学校と連携した活動は大きな成果をあげ、地方自治体などからも支援を依頼されるようになりました。このような経緯から、2006年に「多言語・多文化教育研究センター」を設立し、大学本来の任務である教育、研究、社会貢献において、日本社会の多言語多文化共生事業を実施してきました。

しかし多文化共生は、日本国内での取り組みだけで実現できるものではありません。このため世界知の教育研究拠点としての本学の強みを活かし、地球全体を視野にいたしたグローバルな展開をしていくために、本学の多言語多文化共生事業を一元化し、2019年に、「多言語多文化共生センター」に再編いたしました。

2004年10月
多文化コミュニティ教育支援室を設置

2006年4月
多言語・多文化教育研究センター設立

2019年4月
多言語多文化共生センターへ再編

多言語

TUFS Center for

多文化

Intercultural Studies

共生センター



ラブラドレス ハンナ



ハヤシ チアゴ



デロス アンヘルズ アンドレア

グローバル化によって地球規模での人の移動がますます激しくなる中、世界は、いまだかつてないほどに緊密に結び付けられ、全世界で多言語多文化化が進んでいます。これにともない、地球上のあちこちで幸福な出会いとともに、恐ろしい衝突や摩擦も生まれており、いまや異なる言語、習慣、文化を持つ人びとが対等な関係を築き、平和に暮らすことのできる多文化共生社会の実現は、地球全体でめざすべき目標となっています。

世界の広範な地域にわたる言語・文化・社会に関する教育研究を行っている東京外国語大学は、その専門性を活かし、多言語多文化社会の抱える問題解決に寄与するために多言語多文化共生センターを設立し、多言語多文化共生事業を展開していきます。

東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies



オリベ ロベス レイチェル バオラ



ハンナ タウンニアン



表紙のイラストは、多文化多言語の子どもたちによる「みらいの多文化共生～こんな街や社会になったらいい～」をテーマとした作品です。



多言語多文化共生センター

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 アゴラグローバル2階

Tel : 042-330-5441

Email : tc-jimu@tufs.ac.jp

URL : <https://www.tufs.ac.jp/institutions/cemmer/>



電車

- JR中央線
「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分
(JR新宿駅から約35分)
- 京王線
「飛田給」駅下車 徒歩20分

電車 + バス

- 京王線
「飛田給」駅下車
北口より「多磨」駅行き京王バスにて約10分
「東京外国語大学前」下車

異なる言語、習慣、文化を持つ人々が安心して暮らせる社会の実現をめざして

多様化する社会の課題に取り組む人を育てる

専門通訳講座

多言語多文化化は、日本国内でも急速に進み、すでに総人口の3%を超える外国人が暮らすようになってきました。誰にとっても住みやすい日本社会をつかっていくためには、さまざまな公共サービスの現場において、多言語多文化化へ対応できる体制をしっかりとつくる必要があります。

東京外国語大学では、これまで青山学院大学との連携のもとに、法廷、捜査、弁護活動などの司法の現場で活躍する通訳人材を養成する「司法通訳養成講座」を開講してきました。また2025年度からは、東京科学大学の協力のもと、「医療通訳養成講座」（英語・中国語・ベトナム語の計3言語）を開講し、異なる言語と文化の間で医療従事者と受診者との的確なコミュニケーションを担うことのできるスペシャリストの養成を図っています。講座修了者は、日本在住の外国人の医療機関受診の場面でも、訪日外国人の医療機関受診にも対応し、チーム医療の一角を担う人材として活躍することが期待されます。

医療通訳養成講座のカリキュラム

	春期間	秋期間
1限	医学概論Ⅰ	医学概論Ⅱ
2限	通訳概論	多文化共生基礎
3限	医療通訳Ⅰ	医療通訳Ⅱ

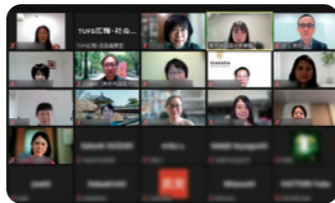
学修成果の認定

本学の専門通訳講座は履修証明プログラムとして開講されています。「医療通訳養成講座」では、全ての科目で所定の成績を取った受講者には、履修証明書を交付します。



言語文化サポーター制度

本学で身につけた専門性を社会に還元するために、本学卒業生および大学院生、教職員等を対象にした言語文化サポーター制度を設けています。登録者は、在日外国人支援や国際イベントにおいて言語および文化のコミュニケーションを図るため、ボランティア活動等でも活躍しています。また登録者向けに、通訳技法や異文化コミュニケーションなどの研修も実施しています。



在日外国人支援

- 弁護士会等が実施する無料法律相談および相談会における通訳
- 東京外国人支援ネットワークが開催するリレー専門家相談会における通訳
- その他教育機関等の公的機関での言語サポート

国際イベント

- スポーツや文化に関わる国際的な催しの通訳や言語力を活かした活動
- 国際交流・国際理解教育等のイベントスタッフ

言語文化サポーターによる登録言語

英語、中国語、スペイン語、フランス語、ポルトガル語、ベルシア語、朝鮮語、インドネシア語、トルコ語、タイ語、ロシア語、マレー語、ドイツ語、台湾語、モンゴル語、ベトナム語、ダラー語、イタリア語、ヒンディー語、フィリピン語、ビルマ語、ウズベク語、ウイグル語、アゼルバイジャン語、ウルドゥー語 など

多文化多言語の子どものことばを育て、学びを支える

日本で暮らす多文化多言語の子どもが急増していますが、日本語の壁に阻まれ、本来の能力を発揮できないという課題があります。私たちは、本学が長年培ってきた多言語多文化に関する専門知識と経験を活かし、こうした社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。

子どものことばを育てるための実践サポート・研修アドバイス

多文化多言語の子どもに関わる指導者や支援者が、子どもの強みを活かして指導目標や実践的な授業デザインを設計できるよう、ワークショップ・研修やアドバイスを提供しています。そこでは、文部科学省の委託事業（2022～2024年度）を通じて国内外の研究者、学校の先生、NPO関係者等との協働研究によって開発された「ことばの力のものさし」「DLA改訂版」を活用しています（いずれも2025年4月文部科学省より公開）。



愛知県立衣台高等学校・学校設定科目「日本語」（2025年10月）にて

子どもの持つすべてのことばに光をあてた評価の枠組み「ことばの力のものさし」

「ことばの力のものさし」は、小学校段階から高校段階までの多文化多言語の子どもたちの「ことばの力」を包括的に捉え、個々に応じた指導・支援につなげるための評価の枠組みです。日本語の知識や技能の習得だけでなく、子どもが持つ複数の言語を通じた「思考・判断・表現」を支える言語能力全体を捉えることを目的としています。



『文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための「ことばの発達と習得の力のものさし（ことばの力のものさし）実践ガイド』



指導力向上に向けた研修「多文化共生は教育から～外国人ルーツの子どもたちが「自分らしく」輝くために、学校や地域ができることを考えよう～」(2025年11月開催)にて

子どもの強みを捉えるためのアセスメントツール「DLA改訂版」

さらに教育現場での実用性を高めるため、高校生にも対応できるようDLA（Dialogic Language Assessment：対話型アセスメント）を改訂しました。DLAは、ペーパーテストだけでは見えにくい子どものことばの力を、一対一の対話を通じて捉えることを目的とした「支援つきのアセスメント」です。8言語に対応した「多言語DLA」を導入し、子どもたちの実態に即した評価を可能にしました。日本語での表現が十分でない子どもに対しても、母語も活用してアセスメントを行うことで、より正確に能力を把握することができます。



『文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメントDLA』

教材はこちらから



知を社会と共有し、共に考える

TUFS Cinema



世界の諸言語による映画等の上映会をトークセッションとともに「TUFS Cinema」として不定期に開催しています。

映画の上映のみならず、必ずトークセッションを組み合わせることにより、世界諸地域の社会・歴史・文化などの理解を促進することがこの取り組みの目的です。なかには字幕翻訳から手がける作品もあります。そのほか過去に上映されたことはあっても、なかなか観る機会の少ない作品も上映しています。

世界には多様な言語・文化・宗教・社会があり、さまざまな「暮らし」や人間の「生きざま」、そして社会の課題があります。それらを共有し、理解を深め、共に考えていく機会を提供します。

講演会・シンポジウムの開催

不定期で一般公開シンポジウムを開催しています。多様な分野の専門家や市民活動の第一線で活躍する方々をゲストに迎え、参加者同士の意見交換や情報共有を通じて、多文化共生社会の実現に向けた理解を深める場としています。



多文化共生シンポジウム「多文化共生をめぐる包摂と排除の理論—外国籍の子どもの就学義務化を求めて」(2024年2月開催)にて。映画監督、元文部科学事務次官など多彩なゲストが登場しました。

多文化多言語生徒向け特別措置・特別入学枠全国データ集の公開

多文化多言語の生徒を対象にした公立高等学校入学選抜での特別措置および特別入学枠についての最新情報を「外国人生徒・中国帰国生徒等の高校入試を応援する有志の会」と協働して、自治体別に公開しています。



愛知県立衣台高等学校・学校設定科目「日本語」（2025年10月）にて

母語を活用した学びの無償提供

前身の多言語・多文化教育センターでは、三井物産株式会社との協力のもと、在日ブラジル人児童のためのポルトガル語教材を開発しました。これを機に、フィリピン語、スペイン語、ベトナム語、タイ語など、多言語に対応した教材へと展開してまいりました。いずれも、多文化多言語の子どもたちが母語を活かして楽しく漢字を学べるよう、かわいいイラストを豊富に取り入れています。

さらに、教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展を踏まえ、これらの人気コンテンツ「漢字教材」を基に、電気通信大学と協働で自律学習用アプリを開発しました。このアプリは、日本の学校現場で特にニーズの高いポルトガル語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、英語、タイ語、ベンガル語、日本語の8言語に対応。多文化多言語の子どもたちが母語を活かしながら、自分のペースで学習を進められるように設計されています。

多文化多言語の子どもための漢字教材



漢字学習アプリ「たふマルリン」